

板津秀雄 いんぎょう 春守職。明治四十五年愛知縣生れ（一九二一）。高等小  
 學校卒業後、名古屋産東邦瓦斯會社技術士を経て、昭和二十二年法務府  
 事務官に就任し、名古屋産刑務所の春守となる。傍ら「囚人と春守」と  
 題した手記を『週刊朝日』に投稿、更に『週刊読売』への一文を詩人  
 堀口大智の知遇を得、『愛と死の壁』なる春守の手記（昭和二十  
 二年六月五日角川書店「角川新書」）の一書と著はす。

